

連載



みんなで盛り上げよう!

オリンピック・ムーブメント



総合型地域スポーツクラブ 座談会 「クラブマネジャーが考える総合型クラブの未来」

座談会メンバー

- 大崎 恵介氏 (アスとれ総合型クラブ クラブマネジャー／山梨県)
- 河野 景子氏 (NPO法人 都農enjoyスポーツクラブ クラブマネジャー／宮崎県)
- 鹿内 葵氏 (NPO法人 スポネット弘前 理事長／青森県)
- 菊地 正氏 (当メールマガジン編集委員長：NPO法人 高津総合型スポーツクラブSELF 副理事長・クラブマネジャー／神奈川県)

世界中に大きな感動を巻き起こしたリオオリンピック・パラリンピックが閉会し、2020年の東京オリンピック・パラリンピック(以下、東京2020)の開催もいよいよ4年後に迫ってきました。

(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が本年7月に公表した「東京2020アクション&レガシープラン2016」では、プランを成功させるための5つの柱の1つに「スポーツ・健康」を掲げています。この柱を担うと考えられるのが総合型クラブであり、東京2020を契機に全国の総合型クラブがより地域に定着することが期待されます。

そこで今、総合型クラブの現場で活躍されるクラブマネジャーが東京2020をどのように捉えているか、また全国の総合型クラブが取り組むことができるオリンピック・ムーブメントはどのようなものがあるか、2020年、そしてそれ以降も含めた総合型クラブの未来についてお話をいただきました。

リオオリンピック・パラリンピック大会の様子

リオオリンピック・パラリンピックの期間中、ブラジル・リオに設置された「Tokyo2020 JAPAN HOUSE」(以下、ジャパンハウス※1)にて、活動された大崎氏から現地の様子や印象をお話いただきました。

※1 ジャパンハウス

リオオリンピック・パラリンピック期間中に現地でオープンしていた、東京2020や東京という都市自体をアピールするための施設。各種展示物のほか、浴衣の着付けや書道といった文化体験コーナーが人気を博した。

司 会：大崎さんはリオの現地を体験されて、どのような感想を持たれましたか？

大 崎：日本に関していえば、次のホストシティなので日本選手にすごく注目が集まっていた。他にもパラリンピック種目は、ブラジルの方がほとんど知らないような種目が多いので、選手を見ることで「こんな種目があるんだ」と認識するきっかけになったと思います。また、スポーツの多様性、そして選手との親密度・親近感という意味で、子どもたちに非常に影響があったのではないかと感じました。パラリンピックは音を出して応援していい場面といけな場面があります。ブラインドサッカー※2なら音で判断するため声を出してはいけないので、そういう教育的な側面を持ちながらパラリンピックを観戦するというのも、印象に残りました。



大崎恵介氏

また、私が運営に携わっていたスポーツ庁ブースで世界中の人々が一番感動したのは「羽子板のデザイン」でした。いわゆる日本人形のような伝統的なデザインでしたが、「なんて美しいの！日本はこういうものがたくさんあるの？」と言われて、現地の方々から「欲しい！」とお願いされました。ただ、1個しかなかったのであげられなかったです(笑)。ここで気づいたのが、羽子板という遊び・スポーツではなく、そのデザインが評価されたことです。つまり、こちらが見せたいものと向こうが見たいものが異なるわけです。そのギャップをどう埋めていくかが必要であり、日本の人々と世界の人々が望む2つの側面を同時に披露しなければならないという点で、オリンピック・パラリンピックはすごく難しいイベントなのだなと感じると同時に、現地の方々からは「あなたたちの2020年はもっとすごいものになるんでしょう？」というプレッシャーもかけられましたね。

※2 ブラインドサッカー

視覚障がい者のためのサッカーで、全盲の選手により行われる。ボールの音とガイド役の声による指示でプレーするため、応援にマナーが求められる。

リオから東京へ 地域×東京2020×総合型クラブ



河野景子氏

司 会：大崎さんのお話では、世界の人々と私たち日本人では、同じ日本でも全く見方が違うとのことですが、地域に根付く文化や日本独自の魅力を世界にアピールする上で、地域の目線、そしてクラブの目線では、どのような取り組みが考えられますか？

河 野：総合型クラブだけではできないことも多いと思うのですが、逆に総合型クラブだからこそ何かできることがあるのではないかと考えています。地域単位で考えたときには、その地域の行政と手を組んでできることもある

と思いますし、地域にあるいろいろな団体と繋がることで、多くの可能性がでてくるとも思います。

ですので、地方に住んでいてもオリンピック・パラリンピックを他人事じゃなく何かしらの形で参加できるものにしたいです。海外の選手たちを迎える準備に携わるとか、オリンピックのグッズが地方でも買えるとか、選手が東京以外の地域にも来てくれるとか。そういうことを期待しますし、実現できたらいいなと思います。

鹿内：ロンドンの時も、そういう底辺（地域単位の活動）の拡大や英国全土における文化プログラムの実施にすごく力を入れていたようです※3。ですので、日本は総合型クラブを中心に、スポーツ文化の土壌を地方まで広げることにはチャレンジできると思います。



鹿内葵氏

ただ、2020年が到着点ではないので、そこから新しく出発しなければいけません。どういう仕組みをつくるかも大事ですね。どういう仕組みがあれば、（スポーツを通して）子どもからお年寄りまで楽しめる環境ができるのか。それを世界に示す機会であってほしいなと思います。

※3 2012年ロンドンオリンピック・パラリンピック競技大会

大会開催4年前の2008年から「カルチュラル・オリンピアド」と題した大規模な文化プログラムがロンドンのみならず英国全土で開催され、合計で約18万にも及ぶ様々な文化イベントに約4,300万人の人々が参加した。

参考：http://iccliverpool.ac.uk/wp-content/uploads/2013/08/London_2012_Cultural_Olympiad_Evaluation_ICC.pdf

河野：せっかく海外の方々が日本に来てくれるので、その地域にある素敵な「おもてなし」ができればいいですね。観光地や神社仏閣であったり、その土地の自然を紹介したりすることも「おもてなし」だと思います。選手が頑張っている姿や、地域に来ていただくことを通して、私たちが元気をもらう代わりにそういうおもてなしでお返りする。「やっぱり日本っていいところだな」と感じてもらえることを発信できればと思います。

日本人のマナーがいいと言われているのも、日本文化から生まれていると思います。「もったいない」という言葉もありますし、お米でも水でも何でも敬う心、大切に作る気持ち日本人にはあると思います。2020年に向けて、そういう日本文化をもう一度見つめ直すきっかけになるのかなと思いますね。

菊地：繋がりと総合型クラブというキーワードで言うと一つ考えていることがあります。震災等、災害が発生したときには体育館を中心に避難すると思いますが、そこでの生活は非常に大変です。例えば、地方と都市とで離れたクラブ同士、もしくは同じ地域のクラブ同士がこれからもっと交流を図り、繋がることで、ある地域が被災したときに別の地域のクラブで被災者を受け入れられる態勢をつくる。それは災害大国といわれる日本だから、そして総合型クラブだからできることだと思います。



菊地編集委員長

もちろん、いきなり知らない人たちがいる場所に行ったのでは大変な状況は変わらないので、そのクラブ、地域と何度も交流をしていることが前提です。そうすれば友達付き合いもできてきて、通常の避難所よりは居心地のよい環境ができると思います。どの地方でも災害は他人事ではないので、交流を深めてそういう繋がりをつくりたいですね。そして、鹿内さんもおっしゃっていた仕組みという点では、このような総合型クラブを中心とした地域の繋がりを世界にアピールすることもできますね。

河野：東京で2回目のパラリンピックが開催されるので、障がい者スポーツにも着目したいですね。私の地域の行政とは、「障がい者に優しいまちづくりじゃなくて、障がい者も楽

しめるまちづくりにしたいね」と話しています。

私たちの街で開催している蹴-1GP※4では、障がい・福祉の分野との融合も意識していて、(健常者と)障がい者とのカテゴリも分けていません。同じ条件で対戦できるようにしています。こういったアイデアも地域にどんどん取り入れていければと考えています。

※4 蹴-1GP

読み方は「けりワングランプリ」。NPO法人都農enjoyスポーツクラブが事務局を担う、PK大会に特化したフェスティバル(今年度から一般社団法人蹴-1協会が主催)。

菊 地：障がい者スポーツとオリンピックの繋がりで考えると、例えば、障がいを持った子どもたちがオリンピックの開会式でプラカードを持つとか、車いすで先導するとかはできるわけで、そういう参加の仕方をぜひやってほしいなと思います。オリンピックでそういうことができれば、もっと盛り上がるし関心も高まるはずだと思います。

総合型クラブは何ができるのか？

オリンピック・ムーブメントのアイデア

司 会：皆さんのお話は、まさに総合型クラブだからできることだと思います。それでは、今度は具体的にオリンピック・ムーブメント※5として、地域や総合型クラブができるアイデアをお聞かせ下さい。

※5 オリンピック・ムーブメント

オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のこと。代表的な活動として、ドーピングの撲滅、女性の参画、経済支援などがあげられる。

参考：www.joc.or.jp/movement/data/movementbook.pdf

1 日本独自の文化を海外に発信し、世界と繋がる

大 崎：スポーツ・フォー・トゥモロー※6の事業で「アフリカで運動会を開催しよう」というものがありました。オリンピックを説明するときに「大きい運動会」という言い方をすることがありますが、これはあながち間違っていないと思います。大勢の人たちの交流の中で競技が進んでいき、選手はしっかりと全力を出し切る。それを見て多くの人が喜ぶ。そういう日本人が当たり前やってきたことが、海外ではすごく評価されることがあります。

※6 スポーツ・フォー・トゥモロー

東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される2020年までに、官民連携のもと開発途上国を中心とした100カ国・1000万人以上を対象に推進されるスポーツ国際貢献事業。

参考：<http://www.sport4tomorrow.jp/jp/>

司 会：ラジオ体操もそうですね。地方では方言を使用したラジオ体操もありますが、海外向けに英語版もでていますね。

大 崎：海外だと反応がすごいですよ。ラジオ体操の音楽がかかったらみんな同じ運動ができるということがすごく不思議らしくて。途中の跳躍のところはジャンプにあわせて声を出したり、手拍子を始める人も出てきたりして、どうやらダンスにも見えるらしいです。スポーツでもそれ以外でも、世界の反応を見て、改めて日本のことを知るいい機会だと思いますので、日本の文化を発信していくことが大事だと思います。

河 野：オリンピック・パラリンピック開催までの準備として、例えば私たちが書いた絵が選手村に飾られ選手たちが見てくれるとか、書いた手紙が海外の選手たちに届くとか、具体的な繋がりが持てたらいいですね。「開催されました」で終わりではなく、準備段階で関わることで他人事から自分事になっていくと思います。

鹿 内：下請けというのは変ですけど、クラブで応援フラッグとか作らせてほしいです。「あれ、うちが作った応援フラッグだよ!」と言えますし、そういう関わり方はできるかもしれないですね。

河野：作ります！（笑） 選手もそうですが、観光として来日された方々向けに何か仕掛けたいですね。全国のクラブ・地域同士がすぐに繋がるうとしても難しいと思うので、何かコンセプトが共通するクラブ同士、地域同士で何かやってみるのはどうでしょう。

例えば、宮崎は神話の国と言われているのですが、それは神武天皇が生まれた土地だからなのですね。それで、神武天皇が東に向かう際に通った地域・クラブと連携して、日本らしいストーリー性を持ったツーリズムと一緒に考えると。あと、同じコンセプトのクラブと神楽（かぐら）※7を練習して、開会式で踊るとか。いろいろ楽しいことが考えられると思います。とにかく何かで関われたらいいんですよね。小さなことでも。

※7 神楽（かぐら）

民俗芸能のひとつで、神に奉納するための歌や踊りのこと。

② ボランティアとしての関わり

司会：昨年、平成27年2月に本メールマガジンでは、「みんなで“参加する”オリンピック・パラリンピック」と題し、スポーツボランティアを特集しました。※8 その中で、クラブの活動やイベントに普段から携わっている方々がボランティアとしてオリンピック・パラリンピックに関わるという話題も出ました。

※8 みんなで“参加する”オリンピック・パラリンピックへ」

（公財）日本体育協会発行 総合型地域スポーツクラブ公式メールマガジン第112号（平成27年2月20日）

参考：http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabushien/MM112_BN.pdf

鹿内：ボランティアに参加した人たちが、今度は地域のイベントを開催するとか、クラブの活動に関わってくれとか、繋がりを持って一緒にやっていければいいですね。オリンピック・パラリンピックがきっかけになって「自分の地域でも何かできるんだ！ 盛り上げられるんだ！」という達成感が生まれて、地域に還元できる仕組みが望ましいですね。

菊地：日本ではボランティアの意義とか喜び、価値観がまだまだ浸透していないと思います。オリンピック・パラリンピックを機にそういう意識を多くの方々に持っていただければ、2020年以降のレガシーにも繋がっていくと思います。

オリンピック・ムーブメントアイディア集

- オリンピック・パラリンピックの1日疑似体験
- 総合型クラブ・総合型クラブ連絡協議会にてスポーツボランティアや英会話ボランティアを養成する。
- クラブ会員一人一国応援運動
- 応援メッセージボードの作成
- 地域のトップアスリートを紹介・応援
- 総合型クラブ・総合型クラブ連絡協議会へのパラリンピアン派遣による教室・イベント開催

※平成28年3月2日に開催した「平成27年度SC全国ネットワーク」グループ協議の際に、SC全国ネットワーク代表委員の方々から出されたアイディア（一部）

司会：皆さんのアイディアは、どれも今からできることですね。（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、本年10月より、オリンピック・パラリンピックへの多くの人々の参画を可能にする「東京2020参画プログラム」として、全国各地で応援プログラムを実施しています。このような流れからも、今後より多くの地域において、オリンピック・ムーブメントが拡大していくと思います。

河野：ひとつのクラブだけではできなくても、クラブが繋ぎ目になることで誰かの夢が続くこともあると思います。

大崎：4年後、オリンピック・パラリンピックが日本にやってきたときに、準備も含めて一歩踏み出せるような仕掛けをつくるのがすごく重要だと思います。東京2020は、もう今から始まっていますからね。

100年つづくクラブとなるために

未来に繋げるために、クラブができることは

大崎：オリンピック・ムーブメントとは何かを考えるとともに、スポーツの価値・意義を明確にしていく必要があると思います。また、それに対して自分のクラブの理念をしっかりと見直す必要があるのかなとも感じます。

「このクラブはこの地域のために何をするのか」という明確なビジョンや理念、信念を持つことは、地域課題を解決する上でも重要です。クラブの進む方向がはっきりすることで、地域住民や様々な団体が「これがやりたいのか」と理解することができ、一緒に課題解決に向けて進むことが可能になると思います。

菊地：やっぱり、クラブから地域にどんどん発信していかないといけないと思います。例えば、行政がやることには限界や制限がありますが、クラブは何でもできますからね。まちづくりはクラブが主役にならないとだめで、自分のクラブができること・やるべきことをしっかり把握した上で行政に訴える。その成果が出てくれば当然行政も動くわけです。首都圏だと行政の担当者も3年くらいで代わる人が多いので、なかなかクラブへの理解を浸透させることは難しいのですが、それを続けていかないとクラブも育たないし、地域にも貢献できません。地域の他の団体にはできないことでも、総合型クラブにはできる可能性があるし、やらなければいけないと思うのです。具体的に何をやるかは地域によって違うでしょうけども、大事なことは我々がリーダーシップをとることです。

鹿内：地域課題への取り組みを、オリンピック・パラリンピックとどうリンクさせていくかを考えなければいけないと思います。

地方の話を少しさせていただきますが、いま弘前ではプロ野球の一軍の試合が29年ぶりに開催されることが決定し、野球場を改修したり、ソフトボールの東アジア杯の開催地に決まったりと※9、スポーツ熱が非常に高まっています。

しかし現場はどうかというと、野球やソフトボールの試合を見て自分もやってみたいと思っても、少子化の影響でスポーツ少年団や部活がないという現状なのです。つまり、夢ばかり見させても、実際には子どもたちがプレーできない。このムーブメントとは、総合型クラブがオリンピック・パラリンピックを活用し、それを契機に何か始めていくということですね。

※9 ソフトボール東アジア杯

前ソフトボール日本代表監督の齋藤春香氏は現在弘前市の職員で、ソフトボールの普及に力を入れている。第6回東アジアカップ女子ソフトボール大会は2017年6月17～22日に開催が決定。

司会：そうですね。ものすごく影響力がある東京2020が終わった後、クラブが地域に対して何ができるかを考えて、準備する必要がありますね。

鹿内：高齢化や少子化は世界でも直面している問題で、そのときに「日本はこうやってるんだよ」と見せられるのは一種のレガシーだといえます。それが、日本の財産になると思います。

菊地：そうですね。オリンピック・パラリンピックでどう変わるかじゃなくて、自分たちがどう変えていくかだと思います。

司会：それぞれの地域課題を解決していけば自然と全国のクラブは繋がっていくはずなので、そのためにはオリンピック・ムーブメントを全国展開していきたいですね。



総合型クラブの強みは「繋がり」

司会：今までのお話の中では、「繋がり」ということがたくさん出てきましたね。

河野：これから未来を拓いていく人たちにとって、総合型クラブはオリンピックを通じて関わる地域の方のターニングポイントになりえる場をつくれる可能性があると思います。クラブも、地域も、結局は「人」が関わるのです。その人たちを繋げるきっかけとして、セッティングじゃないですけどクラブが何か提供できればいいなと思います。そういう人を増やして繋げていくことが財産だし、レガシーなのかもしれません。

鹿内：今日の話、子どもたちしてみたいと思います。中学校のゲストティーチャーとして話す機会があるので、どんな意見があるのか聞いてみたいです。一番影響を受ける世代、そしてこれから主役になる世代の意見ですからね。

大崎：オリンピック・パラリンピックが終わって「スポーツをやりたい」「あの選手みたいになりたい」という人の思いに応えるために、今から動き出さなければいけませんね。それは自分のクラブだけではなくて、全国のクラブのネットワーク、そして地域のコミュニティも含めてです。

菊地さんが経験された前回の東京オリンピックの思い出のように、一番大きなレガシーは目に見えない、心に残るものだと思うのです。それを残すために各クラブが主体的に動いていくことが、この4年間、そしてその後も必要になるのだと思います。

菊地：2020年、そしてそれ以降に向けてしっかり貢献できるクラブはきっと100年続くクラブなのだろうと思っています。このように、若い人たちが意見を出し合って、日本のクラブ全体が前に進めるような状況になるのが楽しみです。

クラブマネジャーから一言！



大崎 恵介

アスとれ総合型クラブ(山梨県) クラブマネジャー

中学校、高校時代をブラジルで過ごす。現在は山梨学院大学の特任講師をしており、運動遊びがスポーツにおける熟達化の中で果たす役割について研究している。

主な資格：(公財)日本体育協会公認アシスタントマネジャー
(公財)日本体育協会公認アスレティックトレーナー



「一勝ではなく、一生」

河野 景子

NPO法人 都農enjoyスポーツクラブ(宮崎県) クラブマネジャー

福祉施設職員を経て、現在宮崎県児湯郡都農町の同クラブでマネジャー兼介護予防等の運動指導者として活動している。地域活性イベントの企画運営も行う。

主な資格：(公財)日本体育協会公認クラブマネジャー
健康運動実践指導者



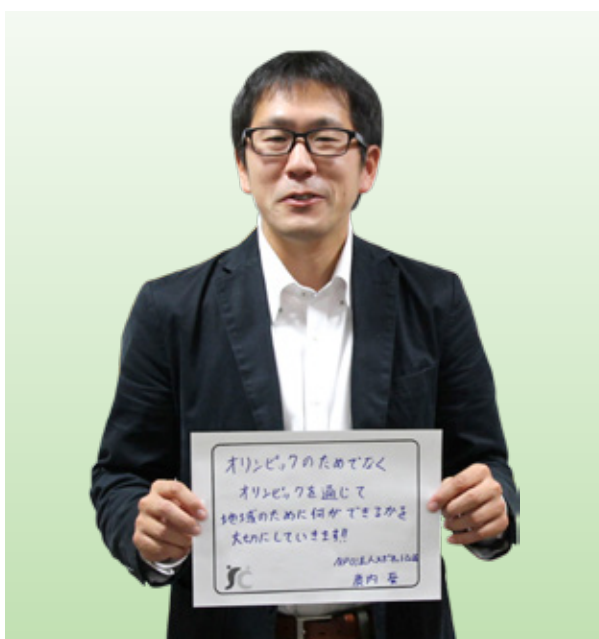
「地域の方々に必要とされ、地域にクラブがあって本当に良かったと思われる活動を」

鹿内 葵

NPO法人 スポネット弘前(青森県) 理事長・クラブマネジャー

弘前医療福祉大学非常勤講師、弘前大学特任講師。地域福祉の観点からスポーツを考え、総合型クラブを設立し現在も活動中。

主な資格：(公財)日本体育協会公認クラブマネジャー
社会福祉士、介護福祉士



「オリンピックのためでなく、オリンピックを通じて地域のために何かできるかを大切にしていきます!!」

菊地 正

NPO法人 高津総合型スポーツクラブSELF(神奈川県) 副理事長・クラブマネジャー

本メールマガジン編集委員長、SC全国ネットワーク代表委員(神奈川県)。100年続くクラブづくりを地域、学校、行政と一体となり行うとともに、新しい学校づくりの計画を推進している。

主な資格：(公財)日本体育協会公認クラブマネジャー



「一生の思い出に残るオリンピックを総合型クラブが作ろう!!」